

一般社団法人日本人間工学会第 63 回理事会 議事録

1. 開催日: 2022 年 10 月 3 日 (月) 18:00~20:30

2. 開催場所: Zoom による遠隔会議

3. 出席理事: <敬称略>

・理事会構成員(27 名・定足数 14 名以上)

(理事): 鳥居塚崇(理事長)、中西美和(副理事長)、青木洋貴(学術)、青木宏文(広報)、石橋圭太(若手支援)、榎原毅(編集・国際・国際誌・将来構想)、笠松慶子(財務)、狩川大輔(安全)、河合隆史(財務)、神田幸治(若手支援)、久保博子(学術)、鴻巣努(表彰)、境薫(若手支援)、佃五月(企業活動)、中川千鶴(総務)、能登裕子(学術)、松田文子(広報)、持丸正明(将来構想)、横井元治(総務)、横山詔常(企業活動)

[20 名]

(理事兼支部長): 小林大二(北海道)、高橋信(東北)、三林洋介(関東)、斎藤真(東海)、小谷賢太郎(関西・国際)、石原茂和(中国・四国)、庄司卓郎(九州・沖縄)

[7 名]

[計: 27 名]

(欠席者): なし

・オブザーバー: 井出有紀子(認定機構)、佐藤洋(JENC)、下村義弘(第 64 回大会)、村田厚生(第 63 回大会)、八木佳子(認定機構)、吉武良治(表彰)

・監事: 赤松幹之、大須賀美恵子

・事務局: 西原彩、米倉裕美

※全員ネット会議出席者

4. 議事概要

定足数 14 名を超える 27 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款に従い理事長を議長として議事を進行した。

【審議事項】

(1) 第 1 号議案 2024 年第 65 回大会について(理事長)

鳥居塚理事長より、2024 年第 65 回大会を北海道支部長 小林大二大会長(小樽商科大学: 千歳市)で開催したい旨説明があり、承認された。小林支部長より挨拶があった。開催日程は 2024 年 6 月第 2~3 週の土日を予定。

(2) 第 2 号議案 2022 年度セミナーの開催について(理事長)

鳥居塚理事長より、セミナー実施に向けて企画担当案と進め方の説明があった。企業活動・将来構想・広報・若手支援の各委員会が中心となり、企画を提案・検討してほしい。一般の方、企業の方を対象とするセミナー企画が重要となるため、企業活動推進委員会に中心的な役割を担ってほしいと説明があったが、具体的な内容や分担については実際に開催準備を進めながら調整することになった。参加費・参加者管理等は事務局が担当予定。

賛助会員向けのサービスに繋がると良いという意見があり、引き続き検討することになった。

最後に、積極的にセミナーの企画提案に協力してほしい旨、鳥居塚理事長よりお願いがあった。

(3) 第3号議案 横幹連合推薦理事(任期2023~2024)について(理事長、学術)

青木学術担当理事より、慣例的に学術担当は横幹連合理事を担当しているが負担が大きいので、今後の継続について一度検討してほしい旨提案があった。横幹連合加入時の経緯を知っている理事会メンバーより、複数の中小学会が繋がることでメリットを得ようという理想があったが JES の活動と離れてきているのではないかと、横幹連合は当初、細分化した科学技術の成果だけでは社会のニーズに応えきれないので統合したいという趣旨があった、等の情報が寄せられた。

審議の上、これまでの関係者に話を聞いたうえで、正副理事長・総務・財務が継続の有無を判断することが承認された。継続する場合は推薦理事についても検討する。役員推薦依頼締め切りの11月30日までを目途に早急に決定する。

(4) 第4号議案 年次大会の講演原稿フォーマットの改訂について(編集委員会)

榎原編集委員長より、年次大会の講演原稿フォーマットが古く、現在の学会誌のフォーマットと合っていないので、統一してほしい旨お願いがあり、承認された。次回第64回大会より新しいフォーマットを利用することを確認した。

(5) 第5号議案 記事アーカイブ化(J-STAGE)について(編集委員会)

榎原編集委員長より、論文以外の原稿のJ-STAGE掲載についてこれまでの経緯の説明があった。第1期作業分として、直近10年間の学会本部から発信している重要な原稿、を優先的に作業費用を抑えて進めたい旨の提案があり、承認された。それ以前の分については、財源の問題もあるため、今後改めて検討する。

また、希望者には掲載料を負担いただき、優先的に掲載作業をすることについても提案があり、審議の上承認された。対象は学会誌に掲載されている論文以外の原稿(各分会活動報告、大会開催報告、書評等)。これらの原稿については、将来的にJ-STAGEに掲載される可能性はあるが、現時点では掲載時期等は未定。

実作業については、編集委員会と財務・総務・事務局で相談の上進める。

(6) 第6号議案 安全工学シンポジウムの共催金および主催者について(安全人間工学委員会)

狩川安全人間工学副委員長より、安全工学シンポジウムが2020年以降オンライン開催となった影響で必要費用が増大し、継続が難しい状況にあり、共催金を2万円から5万円に増額する案を支持することを学会として回答したい旨提案があり、審議の上、承認された。多くの学会が増額について賛同している旨、鳥居塚理事長より補足があった。

【報告事項】

(1) 総務報告

(1-1) 中川総務理事が、2022年定時社員総会議事録および第62回理事会議事録について報告した。

(1-2) 会勢報告・新入会と退会

2022年8月末現在、会員数1,300名(+31名)、賛助会員21社22口。

4年未納退会者19名について確認した。

(1-3) AMEDヘルスケア社会実装基盤整備事業への参画・協力

榎原理事より、産業衛生学会が中心となり進めている事業に協力することになった旨、資料を基に説明があった。

(2) 財務報告 8 月度収支計算書

笠松財務理事より、8 月度収支計算書について報告があった。

(3) 第 63 回大会 (2022 年 7 月 30~31 日) 開催報告

村田第 63 回大会長より大会開催報告があった。大会参加者は 417 名。尾道市の全面的協力により会場使用料がかかっていないこと、機器展示が多かったこと等の理由により収支は黒字となった。尾道市と学会へそれぞれ約 130 万円を寄付する予定の旨ご説明があり、理事長よりお礼が述べられた。

(4) 第 64 回大会 (2023 年 9 月 7~8 日) 準備状況報告

下村第 64 回大会長より、実行委員会を組織し運営を進めている旨報告があった。特別講演・一般口頭発表・シンポジウム・ポスター発表を準備。ハイブリッド開催を想定し、現地参加者は 100~150 名の予定、オンラインと現地どちらでも楽しんでもらえる内容としたい。

(5) 担当・委員会報告

(5-1) 広報委員会

青木委員長より今後の活動予定について、関連団体との活動連携や有償セミナーの実施等の説明があった。大会・支部大会登録時に、任意で ERGO Directory 情報を収集、更新したい旨提案があり、承認された。10月28日開催の KANSEI” 感性” サロンにて、GPDB の PR 活動を実施予定。

(5-2) 編集委員会

榎原委員長より、編集委員や査読を引き受けていただいた方のご尽力で査読日数が抑えられていることの報告と、2 つの査読基準の周知・リサーチ・イシューの投稿お願いがあった。賛助会員の論文投稿受付が可能になった。

(5-3) 国際協力委員会

小谷委員長より、各日程案内があった。IEA 評議員会 10 月 31 日~11 月 1 日オランダ。IEA 次期大会 2024 年 8 月 25~29 日韓国。日韓シンポ 10 月 5~7 日済州島、2023 年度は JES 担当。ACED 評議員会 6 月 30 日オンライン、ACED 次期大会 2023 年 12 月 14~16 日ムンバイ。

(5-4) ISO/TC159 国内対策委員会

佐藤委員長より、9 月 5 日に委員会を開催したこと、標準化貢献賞の推薦を準備中であること等報告があった。学会セミナーの提案を積極的に進めたい。IEA の活動に協力依頼があり、対応予定。

(5-5) 表彰委員会

吉武委員長より、第 63 回大会時の優秀研究発表奨励賞受賞者 3 名の報告があった。表彰は所属支部の支部大会にて実施する。

(5-6) 安全人間工学委員会

狩川副委員長より、安全工学シンポジウム 2023 (2023 年 6 月 29 日~7 月 1 日開催) は JES が幹事学会で準備を進めていること、安全に関する情報発信をニュースレターにて適時行っているとの報告があった。

(5-7) 学術担当

青木担当理事より、引き続き横幹連合の件について、検討継続のお願いがあった。鳥居塚理事長より、今後学術担当から委員会にしたい考えがある旨話があった。

(5-8) 人間工学専門家認定機構

八木機構長より、9 月 10 日の認定試験にて初めて英語試験を実施した旨報告があった。CPE セミナ

ーを11月10日、11月22日にオンラインにて開催予定。ワークアーゴノミクス研究部会との共催イベントを6月と9月に開催した。

(5-9) 若手支援委員会

石橋副委員長より、資料を基に活動報告と若手支援に関する資料作成について説明があった。正会員の年齢構成および入会時年齢とも上がっており、若手が少ない。若い方の入会を促すような支援策が喫緊の課題であり、次年度以降の予算措置希望の話があった。

(5-10) 企業活動推進委員会

佃委員長より、9月8日に第1回ミーティングを開き、フリーディスカッションを行った旨報告があった。関西支部大会にて、企画セッションを準備中。

(5-11) 国際誌検討委員会

榎原委員長より、4月と9月に委員会を開催した旨報告があった。委員会で検討している素案について、今後関係各所と意見交換をしたい旨説明があった。

(5-12) 子どものICT活用委員会

吉武委員より、第63回大会にてシンポジウムを開催した旨報告があった。

(5-13) 子どものICT活用委員会

持丸委員長より、AIやメタバース等の技術環境の中での人間工学の新しい役割を、文章でまとめたりワークショップ等で発信する活動を計画している旨報告があった。

(5-14) PSE委員会

鳥居塚委員長より、IEAコンピテンシーの和訳を行い、IEA Pressより出版する計画を進めている旨報告があった。

(6) 支部報告

(6-1) 北海道支部

小林支部長より、11月26日に北海道支部大会を小樽商科大学小樽キャンパスにて開催予定の旨、案内があった。大会参加費は無料。部会や委員会のセッション枠を設ける。

(6-2) 東北支部

高橋支部長より、12月17日山形市・2023年3月仙台市にて支部研究会を2回開催予定の旨、案内があった。

(6-3) 関東支部

三林支部長より、6月17日に支部委員会を開催したこと、12月3~4日に関東支部大会・卒業研究発表会を白鵬大学 船田大会長にて開催する旨、案内があった。

(6-4) 東海支部

斎藤支部長より、10月29日に東海支部2022年研究大会を朝日大学 菅嶋大会長にて開催する旨、案内があった。

(6-5) 関西支部

小谷支部長より、10月18日に支部見学会を開催、12月10日に関西支部大会を近畿大学にて開催する旨、案内があった。支部大会にてSEGs2040の9目標と発表内容の関連を予稿集に掲載する(SEGsアイコンを載せる)試みを実施予定。

(6-6) 中国・四国支部

石原支部長より、今年は全国大会協力があったので支部大会は開催しない旨説明があった。

(6-7) 九州・沖縄支部

庄司支部長より、12月9日に九州・沖縄支部大会を博多駅付近会議室にて開催する旨、案内があった。

(7) 協賛等の依頼

中川総務理事より、合計20件の協賛等依頼について報告があった。

(8) その他

今後の理事会日程について

次回第64回理事会を12月に開催予定。

(9) 閉会

以上の議事を終え、20時30分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、代表理事、監事がこれに記名押印する。

2022年10月3日

代表理事

鳥居塚 崇^印

監事

赤松 幹之^印

監事

大須賀 美恵子^印